

# 平成22年度 白鳥寮・しらとり 事業計画概要

前年の概要
<p>1 入所 8世帯、退所10世帯あり、入所3世帯はDV、再統合2世帯、住宅困窮2世帯、若年母子が1世帯であった。退所は都営住宅が4世帯、アパート転宅が5世帯、実家引取りが1世帯であった。</p> <p>2 今年度在籍25世帯中、府中市からの受入が3世帯の他、保護実施機関は13市あった。</p> <p>3 東京都、市区町村(他県含む)、大韓民国・民間団体・その他関係者約110人の見学者を受け入れ、対応した。</p> <p>4 更なるサービスの向上に向け、平成16年度から第三者評価を継続受審(訪問日:11月16日福祉規格総合研究所)のほか、サービス自主評価も3児童施設共通で1月に実施した。</p> <p>5 支援センターは「たち」との連携を整備し、職員のスキルアップを目指し各種研修にも積極的に参加した。</p> <p>6 「オープンルーム」は24回実施し、約1000組の世帯が参加、2歳児までの母親を対象とする「ミニルームあいあい」を12回実施し、毎回8組以上が参加した。</p> <p>7 子育て支援プログラムNP(ノーバディーズ・パーフェクト)プログラムを2回(各8日)実施し、19組38名が参加した。内1回は生涯学習センターで行いフォローアップ研修を2回実施した。行政・利用者より高い評価を受けている。</p> <p>8 トワイライトステイ事業は保育所の時間延長に伴い、利用数は前年度より減少している。ショートステイ事業は多様な利用理由に対応した。</p>

課題
<p>1 利用者が日々安心・安全に生活および利用できる建物管理と維持 「子ども」が安心して、健やかに育つ環境を最重視する。(泉苑改修予定)</p> <p>2 母子生活支援施設と子ども家庭支援センター職員の連携</p> <p>3 母子生活支援施設に関わる制度施策を学ぶ 「法律改正や制度変更等を正しく理解する」</p> <p>4 「たち」との協働 要保護世帯への対応、サービス事業のための連携強化を行う。 ボランティア育成、受け入れのための基盤整備を行う。</p> <p>5 白鳥寮における入所者確保 精神的課題・DV・若年・外国籍といった入所世帯への対応強化</p> <p>6 府中市における新たなサービス事業の構築、展開 トワイライトステイ等利用者数の減少への対応する。 府中市他関係機関との連携を図る。</p> <p>7 築14年を経た建物の修繕に備える体制整備 設備の老朽化への適切な対応を行う。 中長期経費計画の策定を実施する。</p> <p>8 自立支援計画を基本とした、記録の正確・適切な記述、文章作成を行うための職員のスキルを高める。また、PDCAを再確認して利用者支援を行う。</p>

本年重点ポイント
<p><b>重点ポイント</b></p> <p>1 利用者が安全・安心に生活できる場の提供を図る。防犯防災の徹底と利用者からの信頼を目指す。</p> <p>2 母子生活支援施設と子ども家庭支援センター職員の連携を図る。</p> <p>3 法律改正や制度に対応し、自らの使命を果たし内部研修で法を理解し、利用者支援を実施する。</p> <p>4 多様な課題を抱えた利用者との信頼関係を築くため、土日・夜間職員体制を充実する。</p> <p>5 子ども家庭支援センター事業を検討する。たちとの関係性を検討し、事業を見直す。</p> <p>6 現状にあった「あるべき施設」の検討をする利用者ニーズに見合った「あるべき施設」を歴史と現実を踏まえ検討する。</p> <p>7 自立支援計画に沿った利用者支援の確立、自立支援計画に沿った支援と正確な記述。定期的な振り返りによる支援方針の見直しをする。</p> <p>8 計画的な建物の保守管理を実施する。</p>

全体を通した考え方
<p>法人の理念である「私たちは家族を支援します。」を再認識し、子どもたちの福祉の向上に取り組む。また、地域の方々に感謝の気持ちを持ち、「子育て支援」の核拠点としての役割を担うと同時に、「母子生活支援施設」として利用者へ深い共感を持ち、安全安心を常に心がけ、安心して暮らせる施設を目指す。</p> <p>しらとりの方針として</p> <p>1 利用者の安心・安全を保持する。</p> <p>2 地域との連携を図る。</p> <p>3 節約に努める。</p> <p>4 常に防災に心がけ、火を出さない。</p> <p>5 利用者、地域の方の声を聞く。</p> <p>近年の利用世帯はDV被害者や虐待等を受けた世帯が多く、心理的ケアが重要視されている。また、若年母子が増え、親子共に支援が必要である。特に若年母子は、集団生活に馴染めず、何も解決されないまま退所になることが多い。施設で生活をして始めての私たちの支援が役だつと考える。現在、社会的擁護体制の見直しが見られる中、現行の施設のあり方の見直しを検討され、母子生活支援施設もこの特性を活かすケアの改善が望まれている。その新たな機能にチャレンジしたい。</p>

	対利用者	職員・業務
府中市委託事業	<p><b>運営・管理</b></p> <p>1 利用者、職員が互いに協力し、毎月の訓練を重ねながら防災意識を高く持ち、安全な施設の維持に努める。</p> <p>2 警察の防犯指導に沿った来所者の把握、部外者の侵入防止に努め、利用者、子どもに安全な生活環境を提供する。</p> <p>3 安全衛生面に焦点を当てた担当者を配置し、施設内巡回を定期的実施し、環境整備を速やかに行い清潔な生活空間を保つ。</p> <p>4 利用者のニーズ変化に対応した職員配置を行う。</p> <p>5 制度の変更に伴う管理規定やマニュアルの検討を行う。</p>	<p>1 職員の健康管理および心のケアに配慮する。(定期面談の実施)</p> <p>2 コスト管理の徹底により、効率よい運営を実施する。</p> <p>3 第三者評価および自主サービス評価を継続し、利用者視点でのサービスを推進する。</p> <p>4 各種研修に参加し、スキルを高める(外部研修・法人研修・施設内研修)</p> <p>5 整備したマニュアルを検証し、更なる活用に向け改善する。</p> <p>6 適切な施設運営を行っていくために、毎月2回施設長、各部署の代表を中心とするリーダー会議を実施する。</p>
	<p><b>子ども家庭支援センター</b></p> <p>1 利用者への的確な対応ができるよう「たち」とのケース会議・研修の共有を図る</p> <p>2 オープンルームの開催(年24回うちあおぞら4回・白鐘公園および武蔵台文化センター広場)ミニルームあいあい(年12回)</p> <p>3 母親支援プログラムNP(ノーバディーズ・パーフェクト 5月~7月・9月~11月出張NPの実施)今年度も出張NPは、生涯学習センターで行う。また各期半年後にフォローアップセッションを1回ずつ行い効果の定着を図る。</p> <p>4 府中市民による子育て広場情報交換会への参加をし、子育て支援グループの育成と子育て自主サークルの支援を行う。</p>	<p>1 利用者の話しに傾聴し、関係機関との情報共有を密にし、利用者にとってよりよい支援を行う。</p> <p>2 サービス機能の調整・企画立案をサポートする。</p> <p>3 サービス事業担当職員との連携を密にし、合同のケース検討会を実施することで、スキルアップを図る。</p> <p>4 地域の子育てサークル事業と積極的に関わる</p>
母子生活支援	<p><b>サービス事業</b></p> <p>1 利用者 ニーズにあったショートステイの受け入れを行う。</p> <p>2 トワイライト利用者、保護者への季刊通信発行する。(「おかえりい」年4回発行)</p> <p>3 トワイライト受けつけ時間の検討をする。</p> <p>4 母子(父子)緊急一時保護事業の再検討を行う。</p>	<p>1 教職免許法実習の受け入れをする。(人の活用)</p> <p>2 多様化するサービス受け入れ理由に対応すべく府中市との協議を継続的に実施する。</p>
	<p><b>母親</b></p> <p>1 利用者が自立に向けて、個々の目標を達成できるように支援する。-定期面接(年2回)の実施</p> <p>2 心理職(臨床心理士他)との連携による、心のケアに基づく利用者支援を行う。</p> <p>3 就業支援-ハローワークおよび求人情報の提供や技能習得を支援する。</p> <p>4 若年層の利用者への自立・子育て支援をする。(寮内保育の活用)</p> <p>5 土日祭日に気軽に集まれる場を設定する。</p>	<p>1 自立支援計画を策定する。自立支援計画に沿った支援を実行する。</p> <p>2 心理職との連携を図る。</p> <p>3 子育てプログラム「ママサークル」・「子育て勉強会」を実施する。</p> <p>4 技能習得に向けて必要な個別支援をする。</p> <p>5 若年層の利用者への支援を行う。</p>
	<p><b>学童</b></p> <p>1 子どもたちが安心して生活し、仲間意識を育んでいけるよう、日常生活・活動を通して、支援する。</p> <p>2 必要に応じて、学習支援や個別支援を行う。</p> <p>3 子どもたちの自立、自主性を伸ばし、1年間の目標が達成できるよう支援する。心理職、学校、関係機関と連携し、1人1人に合った支援を行なう。</p> <p>4 子どもたちが、遊びや行事活動を通じて、四季折々の体験、豊かな感情を養うように支援する。</p> <p>5 アフターケアの一環として学童等退所も自由に遊べる時間を定期的に設ける。</p>	<p>1 施設内学童保育の安心・安全管理の徹底。職員による衛生・環境整備の向上。</p> <p>2 職員間で報告、連絡、相談を確実にし、情報共有に努め、対応の統一を図る。</p> <p>3 年に2回の面接、個別支援計画を策定、計画に基づいた支援の実施。他機関との連携強化をする。</p> <p>4 課外活動、季節行事にちなんだおやつ作りの実施をする。</p>
<p><b>保育</b></p> <p>1 母親の就労と子育て支援のために、安全に十分配慮しながら寮内保育を行う。</p> <p>2 子どもたちが保育者や他児と十分にに関わり、安心して様々な経験ができるよう支援する。</p> <p>3 土日祭日等に自由保育(仮称・母子ひろば)を行う。</p>	<p>1 乳幼児1人1人の健康管理を行う。</p> <p>2 楽しい子育てへの支援をする。</p>	
連携	<p><b>食事</b></p> <p>1 家庭的な温かい雰囲気の中で、楽しい食事ができるようにする。</p> <p>2 季節に応じた旬の食材を献立に取り入れ、子どもたちの豊かな味覚を育む。</p> <p>3 利用者へ食への関心が持てる機会をつくり、食生活向上の支援をする。</p>	<p>1 衛生管理を徹底する。</p> <p>2 食物アレルギーへの対応として、代替食を提供する。</p> <p>3 節約に努める。</p>
	<p><b>事業連携</b></p> <p>1 地域子育て支援の拠点・サービスの情報整理を行う。(たちとの連携)</p> <p>2 たち・しらとり協働で子育てボランティアを育成する。</p> <p>3 トワイライト事業と学童の連携を図る。</p>	<p>1 地域の子育て情報を整理して提供する。</p> <p>2 ボランティア講座の協働開催を行う。</p> <p>3 職員間の報告・連絡・相談を徹底する。</p>